

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	工学院大学
設置者名	学校法人工学院大学

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難		
			全学 共通科目	学部等 共通科目	専門 科目	合計				
先進工学部	生命化学科	夜・通信	11		24	35	13			
	応用化学科	夜・通信			36	47	13			
	環境化学科	夜・通信			25	36	13			
	応用物理学科	夜・通信			16	27	13			
	機械理工学科	夜・通信			39	50	13			
工学部	機械工学科	夜・通信					14	25	13	
	機械システム工学科	夜・通信					14	25	13	
	電気電子工学科	夜・通信					18	29	13	
建築学部	まちづくり学科	夜・通信					33	44	13	
	建築学科	夜・通信					37	48	13	
	建築デザイン学科	夜・通信					44	55	13	
情報学部	情報通信工学科	夜・通信			22	33	13			
	コンピュータ科学科	夜・通信			19	30	13			
	情報デザイン学科	夜・通信			17	28	13			
	システム数理学科	夜・通信			34	45	13			

(備考)

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

学園ホームページに掲載 (Home / 学園情報 / 情報公表)
<https://www.kogakuin.ac.jp/about/kogakuin/disclosure/index.html>

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名

(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	工学院大学
設置者名	学校法人工学院大学

1. 理事（役員）名簿の公表方法

学園ホームページに掲載 https://www.kogakuin.ac.jp/about/kogakuin/chart.html
--

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容や期待する役割
非常勤	小澤英明法律事務所 所長 弁護士	2020年5月22日から2023年3月に終了する会計年度の決算及び事業の報告に関する評議員会の終結の時まで	有識者として、学校法人から独立した客観的な立場から経営に対する助言、監督を行うこと。
非常勤	一般社団法人工学院大学 校友会会長 株式会社優良住宅ローン 代表取締役社長	2020年5月22日から2023年3月に終了する会計年度の決算及び事業の報告に関する評議員会の終結の時まで	校友の代表として、学校法人から独立した客観的な立場から経営に対する助言、監督を行うこと。
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	工学院大学
設置者名	学校法人工学院大学

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。</p>	
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p> <p>例年</p> <p>1月 翌年度の授業時間割及び担当教員決定</p> <p>2月 各授業担当教員へ、授業計画(シラバス)への入力を依頼</p> <p>3月 授業担当教員による入力完了を受け、内容の承認を行う。</p> <p>4月1日 学園ホームページにて、全授業科目の授業計画(シラバス)を公表。</p>	
<p>授業計画書の公表方法</p>	<p>学園ホームページに掲載。</p> <p>https://www.kogakuin.ac.jp/student/syllabus_binran/syllabus.html#1</p>
<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p>	

(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)

全ての授業において授業計画（シラバス）にて、

- ・ 学位授与の方針
- ・ 具体的な到達目標
- ・ 受講に当たっての前提条件
- ・ 授業の方法とねらい
- ・ 授業内容及び事前学習・事後学習
- ・ 成績評価の方法

等を示し、工学院大学学則第 33 条及び工学院大学成績評価規程(別添)に則り、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、予めシラバスに示した学習成果・到達目標に達しているかを厳格かつ適正に評価し、A+、A、B、C、D、F の 6 段階から成る成績評価を認定している。

3. 成績評価において、G P A等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。

(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)

成績評価においてはGPAを用い、工学院大学成績評価規程にて以下の評価基準、算出方法を定めている。

さらに、各学科のGPA分布状況(別添:2019年度1~3年生分)を客観的な指標として学生に公表した上で、指導を必要とする対象学生のGPA値を予め示し、適切な指導を行っている。

<評価基準>

評価	GP	評価基準	合否
A+	4.00	到達目標に達しており、非常に優秀な成績をおさめている	合格
A	3.67	到達目標に達しており、優秀な成績をおさめている	
B	3.00	到達目標に達しており、良好な成績をおさめている	
C	2.00	到達目標に達している	
D	1.00	到達目標に達しているが、習熟を確実にするために再度受講することを推奨する	
F	0.00	到達目標に達していない	不合格

<算出方法>

- ・単位あたりの平均値であるGPAは、各科目の単位数にあてられたGPを乗じたものの総和を、卒業に必要な単位数として算入できる科目の総履修登録単位数で除して算出するものとする。(同一科目を複数回履修した場合には、履修した中で最も高い評価を用いる。)
- ・GPA算出のための対象科目は、本学学則第35条に定める卒業に必要な単位数として算入できる科目とする。
- ・GPAは、小数点以下第3位を四捨五入する。

通算 GPA =

$$\frac{\{(A+\text{の単位数} \times 4) + (A\text{の単位数} \times 3.67) + (B\text{の単位数} \times 3) + (C\text{の単位数} \times 2) + (D\text{の単位数} \times 1) + (F\text{の単位数} \times 0)\}}{\text{入学時から成績評価(不合格を含む)が確定した科目の総単位数(同一科目は1回分を算入)}}$$

入学時から成績評価(不合格を含む)が確定した科目の総単位数(同一科目は1回分を算入)

- ・計算日時点で成績が確定した科目のみ計算対象とする。
- ・小数点以下第3位を四捨五入する。
- ・「不合格科目(含未受験科目)」の単位数は分母・分子両方に含む。
- ・「再履修・リピートした科目」の評価が、従前より高くなった場合、低い評価の単位数は分母・分子両方から除外し、高い評価のみを分母・分子両方に含む。
- ・「再履修・リピートした科目」の評価が、従前より低い、もしくは同じ評価となった場合の単位数は分母・分子両方から除外する。
- ・「履修中止した科目」「教職課程の教職に関する科目、学芸員課程の必修科目などの卒業に必要な単位数に算入されない科目」の単位数は分母・分子両方から除外する。

客観的な指標の算出方法の公表方法

学園ホームページ学生便覧に掲載
https://www.kogakuin.ac.jp/student/syllabus_binran/t5eu6900000vc0t-att/gpa_2020.pdf

4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。

(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)

学生の卒業認定については工学院大学学則第 32 条並びに第 35 条により定め、さらに本学の教育研究の目的を踏まえ、学生が身につけるべき能力についてディプロマポリシー（学位授与の方針）を全学科において定め、学園ホームページにて公表している。

学位授与方針は各学科カリキュラムにて科目ごとに設定されており、卒業には 124 単位以上を修得することとし、各学部各学科における区分ごとの卒業条件（学則別表第 5）を充足したものについて、学科毎に卒業判定を行っている。

卒業の認定に関する
方針の公表方法

学園ホームページに学則別表第 5 を掲載。
https://www.kogakuin.ac.jp/about/kogakuin/fbb28u0000002ftb-att/reg_5_2020.pdf

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	工学院大学
設置者名	学校法人工学院大学

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	学園ホームページ「財務状況」のページにて公表 https://www.kogakuin.ac.jp/about/kogakuin/financial/index.html
収支計算書又は 損益計算書	学園ホームページ「財務状況」のページにて公表 https://www.kogakuin.ac.jp/about/kogakuin/financial/index.html
財産目録	学園ホームページ「財務状況」のページにて公表 https://www.kogakuin.ac.jp/about/kogakuin/financial/index.html
事業報告書	学園ホームページ「財務状況」のページにて公表 https://www.kogakuin.ac.jp/about/kogakuin/financial/index.html
監事による監査 報告(書)	学園ホームページ「財務状況」のページにて公表 https://www.kogakuin.ac.jp/about/kogakuin/financial/index.html

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称: 事業計画)	対象年度: 2020年度)
公表方法: 学園ホームページ「中期計画および事業計画」のページにて公表 https://www.kogakuin.ac.jp/about/kogakuin/plans.html	
中長期計画(名称: コンパス2023)	対象年度: 2018~2023年度)
公表方法: https://www.kogakuin.ac.jp/about/kogakuin/plans.html	

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法: 学園ホームページ「自己点検・自己評価」のページにて公表 https://www.kogakuin.ac.jp/about/internal_quality/index.html
--

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法: 学園ホームページ「大学基準協会の大学評価結果」のページにて公表 https://www.kogakuin.ac.jp/about/internal_quality/index.html
--

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 先進工学部
教育研究上の目的（公表方法：学園ホームページにて公開 https://www.kogakuin.ac.jp/about/kogakuin/disclosure/ ）
<p>（概要）本学部は、充実した教養教育により人間と社会と科学技術を多様な視点から捉える眼を養い、さらに自然科学の基本原則を踏まえ、それらと工学との融合による近未来の科学技術イノベーション実現に意欲をもち、社会に貢献するための人間性を兼ね備えた技術者を養成し、高度の研究を進めることとあわせて「持続型社会を支える科学技術の発展」に寄与することを教育研究上の目的とする。</p> <p>生命化学科 生命化学科は、複雑な生命の営みを様々な物質や化学反応との関わりから理解していくことを目指し、化学・生命科学分野の基礎研究およびその応用に携わる。また、その活動を通じて、生命に向き合う倫理観と困難な研究課題に取り組むための基礎的な能力を兼ね備えた生命化学研究者や技術者を養成し、もって「持続型社会を支える科学技術の発展」に寄与することを教育研究上の目的とする。</p> <p>応用化学科 応用化学科は、『「くらし」を支え「みらい」を拓く化学のちから。』を基礎理念としている。「くらし」を支え「みらい」を拓くための課題に対して、化学の力を使って積極的に取り組むことによって、環境に調和した持続循環型社会の実現に寄与し、食品・バイオから次世代エネルギー素材まで、さまざまな産業分野で広く活躍できる健全で幅広い視野、基礎学力、および実践力を備えた化学技術者・研究者を育成することを教育研究上の目的としている。</p> <p>環境化学科 環境化学科は、現代社会が直面する問題の解決に資する知の創造とその応用手法の確立を目的とする環境化学の分野において研究に携わり、さらに研究をもとに時代の要請に応じて世界のあらゆる場所で直面する環境に関連する諸現実の問題を解決するための実践的な研究開発能力を持ち、環境化学に関連する幅広い複合的な研究領域で活躍できる技術者、研究者を養成し、もって「持続型社会を支える科学技術の発展」に寄与することを教育研究上の目的とする。</p> <p>応用物理学科 応用物理学科は、現代社会や自然環境が直面する問題の解決に資する知の創造を主に物理学の分野に求め、物理学およびその学際領域への実践的研究に携わることで、この分野の発展に努めその応用手法の確立に貢献する。ひいては、応用物理学における研究活動の成果によって、世界の直面する問題に対処し解決できる技術者、研究・開発者、教育者を養成し、もって「持続型社会を支える科学技術の発展」に寄与することを教育研究上の目的とする。</p> <p>機械理工学科 機械理工学科は、現代社会が直面する問題の解決に資する知の創造と、その応用手法の確立を目的とする機械理工学の分野において研究に携わり、さらに研究をもとに時代の要請に応じて世界のあらゆるところで直面する現実の問題について機械工学を駆使して解決し、ひいてはその活動の指揮を執るための能力を有する技術者を養成し、もって「持続型</p>

社会を支える科学技術の発展」に寄与することを教育研究上の目的とする。

卒業の認定に関する方針（公表方法：学園ホームページにて公開
<https://www.kogakuin.ac.jp/about/policy/diploma.html>）

（概要）

01. 基礎知識の修得

- ・自然科学に関する基礎知識や概念を身につけている。
- ・人、社会および文化に関する基礎的な知識や教養を身につけている。

02. 専門分野の知識・専門技術の修得

- ・学部学科毎に示される専門分野の知識を修得している。

03. 汎用的問題解決力の修得

- ・現代社会の問題から解決すべき課題を抽出でき、それに取り組む姿勢を備えている。
- ・課題解決に必要な論理的思考力や分析力があり、解決策が立案できる。
- ・日本語を用いて、自らの考えを論理的にまとめ、適切に表現できる。
- ・英語を用いて、異文化・多文化の中で基礎的なコミュニケーションができる。

04. 道徳的態度と社会性の修得

- ・自己を律し、継続的に学習して知識や能力を高めることができる。
- ・豊かな人間性を備え、相手を理解・尊重しつつ、チームの成果に貢献することができる。
- ・人間社会と科学技術との関わりを多面的に捉えられ、高い倫理観を持って自らの社会的責任を果たすことができる。

生命化学科

ディプロマポリシーの2. 専門分野の知識・専門技術の修得

- ・分子レベルでのモノづくりに関して、その設計（合成計画）およびそれを遂行するスキル（実験技術）を身につけている。
- ・細胞の再生や生物資源の有効利用のための遺伝子操作や細胞培養が行えるスキルを身につけている。
- ・細胞を用いた病態のモデルを対象として、合成した医薬リード化合物を活用した実験技術と、生物活性・薬効の解析技術を身に付けている。

応用化学科

ディプロマポリシーの2. 専門分野の知識・専門技術の修得

- ・さまざまな産業分野で広く活躍できる幅広い視野、基礎学力、および実践力を身につけることができる。

環境化学科

ディプロマポリシーの2. 専門分野の知識・専門技術の修得

- ・広範な基礎理論を応用し、独創的な発想で環境に役立つ技術を開発できる。
- ・環境課題を複眼的に捉え、フィールド調査や化学分析のみならず、数学的モデルを立てて定量的な解析を行うことができる。
- ・製品開発から製造工程の管理にまで携われる、社会ニーズのある化学技術者となる。

応用物理学科

ディプロマポリシーの2. 専門分野の知識・専門技術の修得

- ・現代物理学分野に関する基礎的な知識や教養を身につけている。
- ・物性・材料科学分野に関する基礎的な知識や教養を身につけている。
- ・物理計測工学分野に関する基礎的な知識や教養を身につけている。
- ・エレクトロニクス分野に関する基礎的な知識や教養を身につけている。

機械理工学科

ディプロマポリシーの2. 専門分野の知識・専門技術の修得

- ・物体に作用する力の関係を理解し、発生する物理現象を予測することができる。
- ・材料に力が作用した時の、破壊や変形を予測することができ、構造物の設計に必要な知識を身につけている。
- ・熱力学、流体力学を理解し、各種工業製品の開発に必要な知識を身につけている。
- ・各種工業材料の特長を理解し、製品開発における材料選定の知識を身につけている。
- ・機械図面を見て意味を理解することができ、自身で機械製図を行うことができる能力を身につけている。
- ・医療機器の基本を理解し、その特性を考慮した製品開発の知識を身につけている。
- ・機械部品、機械設計、情報ソフト、医療器機の産業界における具体的な課題に対して、他方面のアプローチにより、製品改良や新技術の開発・提案を行うことができる。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：学園ホームページにて公開

https://www.kogakuin.ac.jp/about/policy/curriculum_ae.html

（概要）

生命化学科

生命化学科では、化学の知識をベースに様々な生命現象を理解し、また生命の営みをヒントに新しい化学の課題を見出すことができる人材の育成という目的達成のため、下記のような教育課程を編成します。

1、2年生で学ぶ「第II群」の基礎科目を土台に、「第III群」の専門科目で、①有機化学領域、②生命科学領域、およびそれら融合領域である③ケミカルバイオロジーの3つの分野を、それぞれの履修モデルを参考にしつつ幅広く学修し、諸分野に関する理解と論理的な思考能力を養います。そして卒論研究において、それらの知識と技能を活かし、生命現象の解明、生物機能を有する有機化合物の合成、新規天然物の単離構造決定、薬理活性評価、安定な食糧供給を目指した生物機能の利用などの研究を行うことで、未知のことへの関わり方や思考の整理の仕方を修得する。

さらに、「第I群」の総合文化科目などを通して、地球や人間社会の多面的な視野を養い、技術者倫理、コミュニケーション能力の向上をはかり、実践力を有する人材を育成します。

応用化学科

化学の力を使って「くらし」を支え「みらい」を拓く人材の育成という目的達成のため、下記のような教育課程を編成します。

1、2年生で学ぶ「第II群」の基礎科目を土台に、「第III群」の専門科目で、有機化学、無機化学、物理化学、分析化学、および生物化学を基本として、基礎理論、応用力を養う演習、ならびに実践力を高める実験を教授し、化学の力で課題を解決する能力を養います。さらに3年生以降、身の回りの素材や食品・バイオ分野の技術を修得する「生活・食品化学コース」と、高分子化学、触媒化学、ナノテクノロジー、次世代エネルギーなどの最先端技術を修得する「応用化学コース」とを設置し専門性を高めます。

また、「第I群」の総合文化科目などを通して、地球や人間社会の多面的な視野を養い、技術者倫理、コミュニケーション能力の向上をはかり、実践力を有する人材を育成します。

環境化学科

環境化学科は、最先端の化学技術を駆使して環境を保全する技術や、環境負荷の少ない材料・エネルギー技術を開発することができ、持続可能な社会に貢献できる人材の育成とい

う目的達成のため、下記のような教育課程を編成します。

1、2年生で学ぶ「第II群」の基礎科目を土台に、「第III群」の専門科目で、化学専門基礎科目（物理化学、分析化学、無機化学、有機化学）を基本として、化学工学における単位操作や装置設計法を教授し、環境に関連する様々な技術的課題を化学工学の視点から解決する能力を養います。

そのために、卒業研究を通して、環境問題の実態を把握し環境保全・修復に関する技術的課題を解決する方法を修得する「環境システム工学コース」と、環境・エネルギー関連材料やプロセスに関する技術的課題を解決する方法を修得する「環境材料化学コース」と、環境・エネルギーに関する課題を環境影響評価や計算化学を駆使して解決する方法を修得する「環境評価・設計コース」とを設置します。

さらに、「第I群」の総合文化科目などを通して、地球や人間社会の多面的な視野を養い、技術者倫理、コミュニケーション能力の向上をはかり、実践力を有する人材を育成します。

応用物理学科

応用物理学科は、物理学とその関連分野の発展と普及に貢献できる人材の育成という目的達成のため、下記のような教育課程を編成します。

1、2年生で学ぶ「第2群」の基礎科目を土台に、「第3群」の専門科目で、①物理・応物一般領域、②物性・材料領域、③物理情報計測領域、④エレクトロニクス領域の4つの分野を、それぞれの履修モデルを参考にしつつ幅広く学修し、諸分野に関する理解と論理的な思考能力を養います。

そして、卒業研究を通して、その知識を工学の諸問題に適用し、分析する方法を修得します。さらに、「第1群」の総合文化科目などを通して、自然界や人間社会に対する多面的な視野を養い、技術者倫理、コミュニケーション能力の向上をはかり、実践力を有する人材を育成します。

機械理工学科

機械理工学科は、機械工学の要素技術とコミュニケーションツールとしての英語能力を駆使して、グローバルに活躍できる人材の育成という目的達成のため、下記のような教育課程を編成します。

1、2年生で学ぶ「第II群」の基礎科目を土台に、「第III群」の専門科目で、機械系4力学（工業力学、材料力学、熱力学、流体力学）を基本として、英会話を中心とした技術英語の習得、ならびに制御工学やその利用のためのプログラミング、金属材料や医療器機の知識を教授し、各種機械設計や製作、開発にたずさわることができる総合力を養います。そのために、卒業研究を通して、産業界における具体的な課題に対して解決できる能力を習得します。

さらに、「第I群」の総合文化科目などを通して、地球や人間社会の多面的な視野を養い、技術者倫理、コミュニケーション能力の向上をはかり、実践力を有する人材を育成します。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：学園ホームページにて公開

https://www.kogakuin.ac.jp/about/policy/admission_ae.html)

（概要）

先進工学部では、学生が教員とともに最先端の科学技術を開拓して行くことをめざします。各学科の基礎理論を系統的に学び、技術者・研究者の卵となることができるような問題解決手法を身につけます。大学院進学にて最先端科学技術を身につけて行くことを念頭に教育プログラムを実践しております。先端科学技術に興味を持ち、絶えず基礎学力の向上に努め、自ら学問に向き合うことのできる学生を求めます。また、科学技術手法を駆使して社会に貢献する意欲あふれる学生を求めます。

生命化学科

生命化学科では、学生と教員が共に、化学の知識・技術を用いて生命に関わるさまざまな課題に取り組みます。そして、生命化学科で行われている教育と研究を通して社会に貢献できる研究者・技術者を育成します。生命現象と化学の関わりに興味をもち、基礎知識・

問題解決力の修得に努め、自ら学問に向き合える学生を求めます。

応用化学科

応用化学科は、化学の力を使って「暮らし」を支え「みらい」を拓き持続循環型社会の実現に寄与します。身の回りの素材や食品・バイオ分野の製品開発から、高分子化学、触媒化学、ナノテクノロジー、次世代エネルギーなどの最先端分野で広く活躍できる人材、すなわち、基礎学力と幅広い視野を身につけ応用力を備えた化学技術者や研究者の育成を目指しています。物質と人間生活や地球環境との関わりに強い興味と勉学意欲を持ち、化学の手法を駆使して社会に貢献することを志す学生を求めます。

環境化学科

環境化学科では最先端の化学技術を駆使して、環境を保全する技術や、環境負荷の少ない材料・エネルギー技術を開発することができる技術者・研究者の育成を目指しています。基礎学力と科学的な思考力を備え、実験・実習を通して環境(大気、水、土壌)の実態を捉えて改善する方法を学び、持続可能な社会に貢献したいと考える積極的な学生を求めます。

応用物理学科

応用物理学科では、物理学の基礎理論を系統的に学びながら現代物理学に対する素養を身につけ、物理を応用することを学びます。そして、現代物理学とその関連分野の課題に対して実践的に取り組み、人間社会のために活用できる技術者や教育・研究者の養成をめざしています。自然界の物理空間における森羅万象の不変的な原理・法則だけでなく、21世紀に出現した人間社会が創り上げた情報空間における普遍的な現象・規則にも関心を持ち、物理的な考え方や手法を用いて社会に貢献することを志す学生を求めます。

機械理工学科

機械理工学科では、国際的にコミュニケーション力を兼ね備えた世界で活躍できる技術者の育成を目的としています。「基礎・専門工学知識(知識力)」を基盤として、幅広い技術問題を理解できる教育を行い、その上で「ものづくり」を楽しむ学科です。コミュニケーションツールとしての英語の向上を目指し、ロボット、クルマ、医療機器、コンピュータなどに興味がある意欲あふれる学生を求めます。

学部等名 工学部

教育研究上の目的(公表方法:学園ホームページにて公開

<https://www.kogakuin.ac.jp/about/kogakuin/disclosure/>)

(概要)本学部は、充実した教養教育により人間と社会と科学技術を多様な視点から捉える目を養い、さらに実践的かつ幅広い教育を通じて専門家としての科学と技術を身につけ、世界で活躍できる技術者を養成し、高度の研究を進めることとあわせて「持続型社会を支える科学技術の発展」に寄与することを教育研究上の目的とする。

機械工学科

機械工学科は、機械の原理やメカニズムのみならず機械の材料や製法についての基礎知識を教授し、新しい機能の機械を効率的、高信頼性をもって設計・製作する独創力、総合力を養う。さらに、地球や人間社会の多面的な視野を養い、技術者倫理、コミュニケーション能力の向上を図り、実践力を有する技術者を養成し、もって「持続型社会を支える科学技術の発展」に寄与することを教育研究上の目的とする。

機械システム工学科

機械システム工学科は、機械工学を基本として、横断的科学技術分野を融合させた領域である機械システムの基礎知識を教授し、企画・設計・管理する能力と柔軟な発想能力を養う。また、地球や人間社会における多面的な視野を養い、技術者倫理、コミュニケーション能力の向上を図ることにより、創造的に活躍できる技術者を養成し、もって「持続型社

会を支える科学技術の発展」に寄与することを教育研究上の目的とする。

電気電子工学科

電気電子工学科は、電気エネルギーに基軸を据えつつ、さらに最新の情報・通信関連のIT技術を応用する立場で自ら課題を発掘し、解決できる技術者を養成し、もって「持続型社会を支える科学技術の発展」に寄与することを教育研究上の目的とする。

卒業の認定に関する方針（公表方法：学園ホームページにて公開

<https://www.kogakuin.ac.jp/about/policy/diploma.html>

（概要）

01. 基礎知識の修得

- ・自然科学に関する基礎知識や概念を身につけている。
- ・人、社会および文化に関する基礎的な知識や教養を身につけている。

02. 専門分野の知識・専門技術の修得

- ・学部学科毎に示される専門分野の知識を修得している。

03. 汎用的問題解決力の修得

- ・現代社会の問題から解決すべき課題を抽出でき、それに取り組む姿勢を備えている。
- ・課題解決に必要な論理的思考力や分析力があり、解決策が立案できる。
- ・日本語を用いて、自らの考えを論理的にまとめ、適切に表現できる。
- ・英語を用いて、異文化・多文化の中で基礎的なコミュニケーションができる。

04. 道徳的態度と社会性の修得

- ・自己を律し、継続的に学習して知識や能力を高めることができる。
- ・豊かな人間性を備え、相手を理解・尊重しつつ、チームの成果に貢献することができる。
- ・人間社会と科学技術との関わりを多面的に捉えられ、高い倫理観を持って自らの社会的責任を果たすことができる。

機械工学科

ディプロマポリシーの2. 専門分野の知識・専門技術の修得

- ・機械工学の主要分野四力学（流体力学、熱力学、材料力学、機械力学）・材料・設計および加工の知識を身につけている。
- ・四力学や機械製図などの知識を総合し、設計やものづくりの問題解決策を提案できる力を身につけている。

機械システム工学科

ディプロマポリシーの2. 専門分野の知識・専門技術の修得

- ・機械工学の主要分野（力学・材料・設計・電子機械・生産工学）の知識を身につけている。
- ・システム工学の主要分野（制御／環境／ロボティクス／システム）の知識を身につけている。
- ・機械工学の主要分野に属する機械要素を用いて構成されたシステムの説明ができる。

電気電子工学科

ディプロマポリシーの2. 専門分野の知識・専門技術の修得

- ・電気エネルギーの発生・利用に関わる機器・システムの技術課題を解決するための知識を身につけている。
- ・電気エネルギーの輸送に関わる機器・システムの技術課題を解決するための知識を身につけている。
- ・エレクトロニクス応用回路・機器・システムの技術課題を解決するための知識を身につけている。
- ・計測・制御システムの技術課題を解決するための知識を身につけている。
- ・電気エネルギーの発生・輸送・利用に関わる機器・システムの技術課題を解決する手法を習得している。
- ・エレクトロニクス・計測・制御に関わる機器・システムの技術課題を解決する手法を習得している。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：学園ホームページにて公開
https://www.kogakuin.ac.jp/about/policy/curriculumpolicy_technology.html ）

（概要）

機械工学科

ものづくりを中心とした幅広い分野で活躍できる人材の育成という目的達成のため、下記のような教育課程を編成します。

1、2年生で学ぶ「第II群」の基礎科目を土台に、「第III群」の専門科目で、機械工学の主要力学を基本として、機械の原理やメカニズムのみならず材料や製法を教授し、新しい機能の機械を効率的、高信頼性を持って設計・製作する独創力、総合力を養います。そのために、卒業研究を通して、エネルギー関連の課題の解決方法を修得する「エコエネルギーコース」と、ハードウェア・デザイン関連の課題の解決方法を修得する「メカノデザインコース」とを設置します。

さらに、「第I群」の総合文化科目などを通して、地球や人間社会の多面的な視野を養い、技術者倫理、コミュニケーション能力の向上をはかり、実践力を有する人材を育成します。

機械システム工学科

機械システム工学科では、「機械工学」と「システム工学」の二つの分野を融合させた領域で活躍できる人材の育成を目指して、学習・教育到達目標を定め、1、2年生で学ぶ「第II群」の基礎科目を土台に、「第III群」の専門科目で機械工学の主要分野（力学・材料・設計・電子機械・生産工学）を基本として、横断的科学技术分野を融合させた領域である機械システムの基礎知識を教授し、企画・設計・管理する能力と柔軟な発想能力を養います。また、「第I群」の総合文化科目などを通して、地球や人間社会における多面的な視野を養い、技術者倫理、コミュニケーション能力の向上を図ることにより、創造的に活躍できる人材を育成するためのカリキュラムを構成します。

電気電子工学科

電気電子工学科では、持続可能型高度情報化社会において活躍できる人材の育成を目指しています。そのために、「エネルギー」、「エレクトロニクス」、「システム」を柱とした以下のような教育課程を編成します。第I群総合文化科目・外国語科目では、社会の多面的な側面や異文化の理解を深め、本学科で習得する技術と社会の関わりを常に意識できる教養を培います。第II群共通基礎科目では、おもに物理学と数学に関する基礎知識と概念を修得し、これらの応用方法を身につけます。第II群専門基礎科目において電気磁気学、回路理論、電子物性、システム制御の4分野の基礎を学修します。第III群専門科目においては、4分野の発展的な内容を含め、電気電子工学の技術者に必要な知識を修得します。さらに、実験や演習を通じて知識を活用する能力を養います。3、4年次のセミナーや卒業論文では、技術課題について総合的に検討し、他者と討論する力や情報を共有する力も養成します。このように、本学科は、電気電子工学の基礎知識を物理学と数学を活用して修得することに加え、社会人としての教養や論理的な思考力を涵養し、技術的問題の発見と

その解決に資する能力が身につく教育課程を編成しています。
<p>入学者の受入れに関する方針（公表方法：学園ホームページにて公開 https://www.kogakuin.ac.jp/about/policy/admission_technology.html）</p>
<p>（概要） 工学部では、実践的かつ幅広い教育を通じて専門家としての科学と技術を身につけ、多様な視点からものごとを捉え、持続型社会を支える科学技術の発展に寄与する技術者の育成をめざしています。そのため、基礎学力を有し、社会の基盤としての科学技術に関心を持ち、自ら積極的に勉学に取り組んで知識や能力を高めることができ、国際的に活躍する意欲を持った学生を求めます。</p> <p>機械工学科 機械工学科では、「基礎学力」だけでなく、「豊かな感性」「柔軟な思考力」「自ら学び、自分の能力向上を図る意欲」を有し、「コミュニケーション能力」の素養があり、ものづくりに興味を持つ学生を求めます。人間社会や地球・地域環境に配慮して総合的に物事をとらえ、国際的な視野に立つ幅広い知識と技術者倫理を持って、機械工学の専門領域まで見渡すことができる技術者の育成をめざしています。</p> <p>機械システム工学科 機械システム工学科では、機械要素と知能を組み合わせる機能化した機械システムの設計や製造、管理などの分野で活躍する技術者の育成を目的とし、機械工学の主要科目をベースに、システム工学、ロボティクス、制御工学などの横断的な科目を学びます。そのため、「基礎学力」だけでなく、「自ら学び、自分の能力向上を図る意欲」を有し、「コミュニケーション能力」などの素養を持ち、ものの仕組みや、動きに興味のある学生を求めます。</p> <p>電気電子工学科 電気電子工学科では、「エネルギー」、「エレクトロニクス」、「システム」の領域で活躍できる技術者・研究者の育成をめざしています。本学科が対象とする分野は電力、通信、交通、航空、宇宙、環境、医療、安心・安全など多岐にわたり、そこで活躍するには電磁気、回路、電子物性、システムなどの知識が必要です。物理、数学の基礎学力を有し、何事にも積極的に取り組める、地球と人に優しい心を持つ学生の入学を期待します。</p>

学部等名 建築学部
<p>教育研究上の目的（公表方法：学園ホームページにて公開 https://www.kogakuin.ac.jp/about/kogakuin/disclosure/）</p>
<p>（概要）本学部は、充実した教養教育により人間と社会と科学技術を多様な視点から捉える目を養い、さらに実践的かつ幅広い教育を通じて、建築および都市環境の創造・再生と新たに形成されてきている建築関連諸分野が今後求める専門家となる人材を養成し、高度の研究を進めることとあわせて「持続型社会を支える科学技術の発展」に寄与することを教育研究上の目的とする。</p> <p>まちづくり学科 まちづくり学科は、地球規模の大きな社会状況の変化のもとで、これから私たちがより快適に住み続けられるためのまちの新しいあり方を考え、身近なまちについて考える様々な視点（つくり手・住まい手の両方からの視点）を身につけ、多角的な視点からまちの将来像を構想し、実現していく素養を身につけた人材を養成し、もって「持続型社会を支える科学技術の発展」に寄与することを教育研究上の目的とする。</p> <p>建築学科 建築学科は、安全で快適な生活の場を構築することを目的として、大量生産・大量消費時</p>

代の新規供給中心の建築ではなく、安全で環境負荷の少ない生活環境の創造と維持を実現する建築の考え方を教育の中心に据えて、これからの新しい建築のあり方を規定するための高度な要素技術（計画、構造、設備、生産）を身につけた人材を養成し、もって「持続型社会を支える科学技術の発展」に寄与することを教育研究上の目的とする。

建築デザイン学科

建築デザイン学科は、単に美しいだけではなく、機能的にも優れ、快適で使いやすい、人間のための建築デザインとは何かを考え、新しいデザインのあり方を創造・発信するとともに、環境への配慮や人間の生活の質（Quality of Life）の向上をも考慮した建築の設計・提案をできる人材を養成し、もって「持続型社会を支える科学技術の発展」に寄与することを教育研究上の目的とする。

卒業の認定に関する方針（公表方法：学園ホームページにて公開

<https://www.kogakuin.ac.jp/about/policy/diploma.html>)

（概要）

01. 基礎知識の修得

- ・自然科学に関する基礎知識や概念を身につけている。
- ・人、社会および文化に関する基礎的な知識や教養を身につけている。

02. 専門分野の知識・専門技術の修得

- ・学部学科毎に示される専門分野の知識を修得している。

03. 汎用的問題解決力の修得

- ・現代社会の問題から解決すべき課題を抽出でき、それに取り組む姿勢を備えている。
- ・課題解決に必要な論理的思考力や分析力があり、解決策が立案できる。
- ・日本語を用いて、自らの考えを論理的にまとめ、適切に表現できる。
- ・英語を用いて、異文化・多文化の中で基礎的なコミュニケーションができる。

04. 道徳的態度と社会性の修得

- ・自己を律し、継続的に学習して知識や能力を高めることができる。
- ・豊かな人間性を備え、相手を理解・尊重しつつ、チームの成果に貢献することができる。
- ・人間社会と科学技術との関わりを多面的に捉えられ、高い倫理観を持って自らの社会的責任を果たすことができる。

まちづくり学科

ディプロマポリシーの2. 専門分野の知識・専門技術の修得

- ・基礎的要素技術の内容や相互関係を理解し、活用できる。
- ・多角的な視点からまちづくりを学ぶことで、実現性の高いスキルを身につけている。
- ・実現性の高い、将来の「まち」のあり方を提案できる。

建築学科

ディプロマポリシーの2. 専門分野の知識・専門技術の修得

- ・基礎的要素技術の内容や相互関係を理解し、活用できる。
- ・建築をつくり、使い続け、資源として循環させたりする高度な要素技術を身につけている。
- ・社会的な課題を背景とした、これからの新しい建築のあり方を提案できる。

建築デザイン学科
ディプロマポリシーの2. 専門分野の知識・専門技術の修得
・基礎的要素技術の内容や相互関係を理解し、活用できる。
・環境への配慮や人間の Quality of Life)向上も考慮した建築の設計・提案を行う能力を身につけている。
・人間のための建築デザインを学生自身が考えて、新しいデザインのあり方を創造・発信することができる。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：学園ホームページにて公開
https://www.kogakuin.ac.jp/about/policy/curriculumpolicy_architecture.html）

（概要）
まちづくり学科
建築学部では、4年間の教育や卒業研究を通して、「A群」の総合教育科目や自然系基礎科目を土台に、「B群」の専門科目で、建築の要素技術を修得しつつ、地球や人間社会の多面的な視野を養い、技術者倫理、コミュニケーション能力の向上をはかり、実践力を有する専門家を育成します。さらに、まちづくり学科では、まちづくりやスキルに関する多面的知識を理解し、実現性の高い、将来の「まち」のあり方を提案ができる能力を養います。

建築学科
建築学部では、4年間の教育や卒業研究を通して、「A群」の総合教育科目や自然系基礎科目を土台に、「B群」の専門科目で、建築の要素技術を修得しつつ、地球や人間社会の多面的な視野を養い、技術者倫理、コミュニケーション能力の向上をはかり、実践力を有する専門家を育成します。さらに、建築学科では、建築をつくり、使い続け、資源として循環させたりする高度な要素技術に関する多面的知識を理解し、これからの新しい建築のあり方を提案ができる能力を養います。

建築デザイン学科
建築学部では、4年間の教育や卒業研究を通して、「A群」の総合教育科目や自然系基礎科目を土台に、「B群」の専門科目で、建築の要素技術を修得しつつ、地球や人間社会の多面的な視野を養い、技術者倫理、コミュニケーション能力の向上をはかり、実践力を有する専門家を育成します。さらに、建築デザイン学科では、環境への配慮や人間の Quality of Life)向上に関する多面的知識を理解し、人間のための建築デザイン提案ができる能力を養います。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：学園ホームページにて公開
https://www.kogakuin.ac.jp/about/policy/admission_architecture.html）

（概要）
建築学部では、理系・文系を問わず、建築・都市に強い興味を持つ次のような学生を求めます。
建築学部が求める人材は、まず建築やまちに興味があり、この分野を学びたいという強い動機と意志を持っている人材で、これは学科に関わらず共通して求められるポイントです。

まちづくり学科
建築は「まち」の一部であり、優れた建築の創造とは「まちづくり」への参加でもあります。まちづくり学科では、建築の基礎を十分に学んだ上で、行政による都市計画から市民主体によるまちづくり、環境共生や安全・安心、ランドスケープ（景観）に配慮したまちづくりなど、建築に加えて「まちづくり」も学びたいという意欲的な人材を求めます。

建築学科
人口減少社会、高齢社会、環境負荷軽減等の社会的な課題を背景として、建築をただ単に「つくる」だけではなく、それを使い続けたり、建築材料を資源として循環させたり、これからの新しい建築のあり方を規定するための高度な要素技術（計画、構造、設備、生産）

を学びたいと考える好奇心旺盛な人材を求めます。

建築デザイン学科

単に美しいだけでなく、機能的にも優れ、快適で使いやすい建築のデザインとは何かを考え、建築の意匠デザイン、住宅・店舗等のインテリアデザイン、高齢者等に配慮した福祉住環境デザイン、重要な建造物の保存・再生に関わるデザイン等に興味を持ち、これからの新しいデザインを提案したい想像力あふれる人材を求めます。

学部等名 情報学部

教育研究上の目的（公表方法：学園ホームページにて公開

<https://www.kogakuin.ac.jp/about/kogakuin/disclosure/>)

（概要）本学部は、充実した教養教育により人間と社会と科学技術を多様な視点から捉える目を養い、さらに実践的かつ幅広い教育を通じて情報がリードする高度情報化社会の時代に、人間が安心して快適に生活していける社会を構築していくための情報技術者を養成し、高度の研究を進めることとあわせて「持続型社会を支える科学技術の発展」に寄与することを教育研究上の目的とする。

情報通信工学科

情報通信工学科は、情報社会の基盤であるネットワーク・通信・デバイス技術について、その動作原理から応用システムまで幅広く理解することができ、さらには人と自然環境との共存という長期的視点に立って情報社会の高度化に寄与できる技術者を養成し、もって「持続型社会を支える科学技術の発展」に寄与することを教育研究上の目的とする。

コンピュータ科学科

コンピュータ科学科は、進化を続けるコンピュータシステムを理解し、それを活用して大規模で複雑な情報を処理・加工する技術を習得し、情報の安全な利用を可能にする技術者を養成し、もって「持続型社会を支える科学技術の発展」に寄与することを教育研究上の目的とする。

情報デザイン学科

情報デザイン学科は、人とコンピュータとの調和を保ち、豊かな感性と情報技術に基づく新たな情報化社会を創造できる技術者を養成し、もって「持続型社会を支える科学技術の発展」に寄与することを教育研究上の目的とする。

システム数理学科

システム数理学科は、企業情報システム、社会情報システムを理解し、企業や社会が必要とする情報システムを構築するとともに数理的な思考力を用いて、ビックデータを扱う実践的なデータ科学を習得し、経営戦略、マーケティング、企業情報戦略をリードできる技術者を育成し、もって「持続型社会を支える科学技術の発展」に寄与することを教育研究上の目的とする。

卒業の認定に関する方針（公表方法：学園ホームページにて公開

<https://www.kogakuin.ac.jp/about/policy/diploma.html>)

（概要）

01. 基礎知識の修得

自然科学に関する基礎知識や概念を身につけている。

人、社会および文化に関する基礎的な知識や教養を身につけている。

02. 専門分野の知識・専門技術の修得

学部学科毎に示される専門分野の知識を修得している。

03. 汎用的問題解決力の修得

現代社会の問題から解決すべき課題を抽出でき、それに取り組む姿勢を備えている。
課題解決に必要な論理的思考力や分析力があり、解決策が立案できる。
日本語を用いて、自らの考えを論理的にまとめ、適切に表現できる。
英語を用いて、異文化・多文化の中で基礎的なコミュニケーションができる。

04. 道徳的態度と社会性の修得

自己を律し、継続的に学習して知識や能力を高めることができる。
豊かな人間性を備え、相手を理解・尊重しつつ、チームの成果に貢献することができる。
人間社会と科学技術との関わりを多面的に捉えられ、高い倫理観を持って自らの社会的責任を果たすことができる。

情報通信工学科

ディプロマポリシーの2. 専門分野の知識・専門技術の修得

- ・情報通信工学に向けた数学の知識を有し、工学問題に応用することができる。
- ・電子回路および電子デバイスに関する知識を有し、工学問題に応用することができる。
- ・通信ネットワークに関する基礎知識を有し、工学問題に応用することができる。
- ・デジタルメディアやソフトウェアに関する基礎知識を有し、工学問題に応用することができる。
- ・情報通信工学に関わる知識を活用し、課題の分析と解決案を実証できる。
- ・電気通信に関わる法規や知的財産についての知識を有している。

コンピュータ科学科

ディプロマポリシーの2. 専門分野の知識・専門技術の修得

- ・情報社会、情報システムの変化に対応できる計算機の基本概念を身につけている。
- ・情報社会、情報システムに対応できる基礎知識を身につけている。
- ・情報システム、情報機器に対して、プログラミングの知識を応用できる。
- ・情報システムにおけるソフトウェアの企画、設計、運用に対応することができる。
- ・情報システムを用いた種々の応用に取り組むことができる。
- ・情報システムの情報セキュリティ構築の基礎を理解できる。

情報デザイン学科

ディプロマポリシーの2. 専門分野の知識・専門技術の修得

- ・人と情報社会についての包括的な知識を身につけている。
- ・人間の認知的側面を理解し、未解決の問題を適切に解くことができる。
- ・デジタルコンテンツの情報社会での応用ができる。
- ・社会や個人から得たデータの特性を理解することができる。
- ・社会や個人から得たデータの分析方法を考えることができる。
- ・情報社会の問題解決方法と道すじを論理的に説明できる。

システム数理学科

ディプロマポリシーの2. 専門分野の知識・専門技術の修得

- ・情報システムのアーキテクチャ/方式設計ができる。
- ・情報システムの機能/非機能設計ができる。
- ・数理統計に基づくデータの分析ができる。
- ・実社会の問題を解くためのアルゴリズム設計ができる。
- ・社会や企業の問題に対する ICT を活用した解決方法を設計できる。
- ・ビジネスモデルや企業戦略と関連した ICT の活用方法を設計できる。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：学園ホームページにて公開
https://www.kogakuin.ac.jp/about/policy/curriculum_informatics.html）

（概要）

情報通信工学科

情報通信技術を応用する立場で課題の発掘と解決ができる人材の育成という目的達成のため、下記のような教育課程を編成します。

1、2年生で学ぶ「第II群」の基礎科目を土台に、「第III群」の専門科目で、電子回路および電子デバイス、通信ネットワーク、デジタルメディアやソフトウェアの基盤技術を教授し、実験・演習を通じて工学問題への応用力を養います。

そのために、卒業研究を通して、「通信・ネットワーク」「情報メディア」「スマートデバイス」とを専門に修得するコースを設置します。

さらに、「第I群」の総合文化科目などを通して、地球や人間社会の多面的な視野を養い、技術者倫理、コミュニケーション能力の向上をはかり、実践力を有する人材を育成します。

コンピュータ科学科

コンピュータ科学科では、情報化社会になくてはならないコンピュータの高度活用ができる人材の育成という目的達成のため、下記のような教育課程を編成します。

1、2年生で学ぶ「第II群」の基礎科目を土台に、「第III群」の専門科目で、情報システム、ソフトウェア開発手法、画像・音声認識などの応用、情報セキュリティの基本について教授し、情報化社会のコンピュータ・システムをマネジメントする力を養います。

そのために、卒業研究を通して、「ソフトウェア」「コンピュータ応用」「情報セキュリティ」を専門に修得するコースを設置します。

さらに、「第I群」の総合文化科目などを通して、地球や人間社会の多面的な視野を養い、技術者倫理、コミュニケーション能力の向上をはかり、実践力を有する人材を育成します。

情報デザイン学科

情報デザイン学科では、人に優しい情報社会をめざし情報の効率的・効果的な利用法を適格にデザイン・開発できる人材の育成という目的達成のため、下記のような教育課程を編成します。

1、2年生で学ぶ「第II群」の基礎科目を土台に、「第III群」の専門科目で、情報ネットワークや画像・音に関わる情報処理を基本として、人と情報社会のつながりを教授し、情報社会の問題を発見・解決する情報デザイン力を養います。そのために、卒業研究を通して、「人間情報」「コンテンツ設計」「知識情報」の柱を専門的かつ複合的に修得するコースを設置します。

さらに、「第I群」の総合文化科目などを通して、社会の多面的な視野を養い、技術者倫理、コミュニケーション能力の向上をはかり、実践力を有する人材を育成します。

システム数理学科

システム数理学科では、企業や社会が必要とする情報システムを企画、構築し、運用できる人材の育成という目的達成のため、下記のような教育課程を編成します。

1、2年生で学ぶ「第II群」の基礎科目を土台に、「第III群」の専門科目で、ITインフラに関する基礎的要素技術を修得しつつ、実践的システム構築、データ科学、経営情報学の基本を教授します。卒業研究ではこれらの基礎的専門技術を総合的に活用することで、実社会の課題を抽出し、それを解決するためのITシステムを提案できる能力を養います。さらに、「第I群」の総合文化科目などを通して、社会の多面的な視野を養い、技術者倫理、コミュニケーション能力の向上をはかり、実践力を有する人材を育成します。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：学園ホームページにて公開

https://www.kogakuin.ac.jp/about/policy/admission_informatics.html）

(概要)

情報学部は、高度情報社会の実現に向けた中核となる情報技術者の育成をめざしています。そのために数学、プログラムなどの基礎学力をベースに、専門技術を体系的に学修します。さらに、実験、演習などを通じて、自ら問題を発見し、解決していく能力を身につけます。情報学を基軸として情報・通信の各種システムの仕組みや社会の多くの課題に関心を持ち、自ら積極的に勉学に取り組むことができ、さらにはグローバルに活躍する志を持った学生を求めます。

情報通信工学科

情報通信工学科では、将来の情報通信、情報メディア、情報デバイスに関わる上で必要となる総合的な基礎学力、柔軟な応用力及び創造力を兼ね備えた人材の養成を目標として掲げています。このため、上記3分野に必要となる学力を養い、その上で専門教育を修得します。現在は漠然としたものでも構いませんが、情報技術に少しでも興味があり、かつ将来に夢を持ってこの分野に関わる面白い仕事をしてみようという学生を求めます。

コンピュータ科学科

コンピュータ科学科は、情報化社会にはなくてはならないコンピュータの利用を通して、人類社会に快適な生活環境を提供できる技術者の育成を目指しています。今や私たちの社会に欠かせないコンピュータの仕組み・基本技術や、ソフトウェア、コンピュータ応用、情報セキュリティ等への興味を持ち、数学的な基礎学力を持って国際的に活躍することを志す学生を求めます。

情報デザイン学科

情報デザイン学科は、柱としてコンテンツ設計、人間情報処理、知識情報処理の三分野を掲げ、デジタルコンテンツ作成技術を理解し、人の行動を正しく分析でき、情報の効率的・効果的な利用法を的確にデザイン・開発できる技術者の育成を目指しています。豊かなコミュニケーション能力と共に数学的な基礎学力と柔軟な思考力を持ち、学科の掲げる柱を構成する分野に興味と熱意を持って、知識と技術の修得に意欲的に取り組める学生を求めます。

システム数理学科

システム数理学科では、企業情報システム、社会情報システムを理解し、企業や社会が必要とする情報システムを企画、構築し、運用できる技術者を育成します。さらに、数理的な思考力を用いて、ビッグデータを扱う実践的なデータ科学を習得し、経営戦略、マーケティング、企業情報戦略をリードできる技術者を育成します。日進月歩で進化する情報社会を自ら切り開いていく夢を持ち、それを実現するための数理に興味を持つ学生を求めます。

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：学園ホームページにて公表

<https://www.kogakuin.ac.jp/about/kogakuin/disclosure/>

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
—	5人	—					5人
先進工学部	—	22人	18人	3人	5人	1人	49人
工学部	—	27人	14人	0人	1人	0人	42人
建築学部	—	29人	7人	0人	2人	0人	38人
情報学部	—	23人	15人	0人	2人	0人	40人
教育推進機構	—	14人	16人	1人	3人	0人	34人
総合研究所・ 教育支援機構	—	9人	0人	14人	0人	0人	23人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長			学長・副学長以外の教員				計
0人			376人				376人
各教員の有する学位及び業績 (教員データベース等)		公表方法：ホームページにて公表 https://er-web.sc.kogakuin.ac.jp/scripts/websearch/					
c. F D（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							
1年度に1度以上実施。録画もして、後日欠席者が視聴できるようにしている。							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
先進工学部	365人	385人	105.5%	1,460人	1,444人	98.9%	若干名	2人
工学部	379人	375人	98.9%	1,516人	1,535人	101.2%	若干名	0人
建築学部	345人	349人	101.2%	1,380人	1,397人	101.2%	若干名	3人
情報学部	310人	314人	101.3%	1,240人	1,272人	102.6%	若干名	3人
工学部第二部	0人	0人	0.0%	0人	1人	0.0%		0人
合計	1,399人	1,423人	101.7%	5,596人	5,649人	100.9%	若干名	8人
(備考)								

b. 卒業生数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
先進工学部	344人 (100%)	87人 (25.3%)	247人 (71.8%)	10人 (2.9%)
工学部	337人 (100%)	75人 (22.3%)	245人 (72.7%)	17人 (5.0%)
建築学部	344人 (100%)	62人 (18.0%)	269人 (78.2%)	13人 (3.8%)
情報学部	246人 (100%)	47人 (19.1%)	193人 (78.5%)	6人 (2.4%)
合計	1271人 (100%)	271人 (21.3%)	954人 (75.1%)	46人 (3.6%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項) 大和ハウス工業株式会社、凸版印刷株式会社、大成建設株式会社、株式会社日立製作所、株式会社関電工、スズキ株式会社、株式会社NSD、株式会社竹中工務店、清水建設株式会社、野村不動産パートナーズ株式会社など				
(備考)				

c. 修業年限期間内に卒業する学生の割合、留年者数、中途退学者数（任意記載事項）					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業者数	留年者数	中途退学者数	その他
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
合計	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
(備考)					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

<p>(概要)</p> <p>全ての授業において授業計画（シラバス）にて、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学位授与の方針 ・具体的な到達目標 ・受講に当たっての前提条件 ・授業の方法とねらい ・授業内容及び事前学習・事後学習 ・成績評価の方法 <p>等を示し、工学院大学学則第 33 条及び工学院大学成績評価規程(別添)に則り、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、予めシラバスに示した学習成果・到達目標に達しているかを厳格かつ適正に評価し、A+、A、B、C、D、F の 6 段階から成る成績評価を認定している。</p>
--

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

<p>(概要)</p> <p>学生の卒業認定については工学院大学学則第 32 条並びに第 35 条により定め、さらに本学の教育研究の目的を踏まえ、学生が身につけるべき能力についてディプロマポリシー（学位授与の方針）を全学科において定め、学園ホームページにて公表している。</p> <p>学位授与方針は各学科カリキュラムにて科目ごとに設定されており、各学科の卒業条件として定める所定の修得単位数を充足することで卒業認定を行っている。</p>				
学部名	学科名	卒業に必要な単位数	GPA制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
先進工学部	生命化学科	124 単位	有・無	単位
	応用化学科	124 単位	有・無	単位
	環境化学科	124 単位	有・無	単位
	応用物理学科	124 単位	有・無	単位
	機械理工学科	124 単位	有・無	単位

工学部	機械工学科	124 単位	有・無	単位
	機械システム工学科	124 単位	有・無	単位
	電気電子工学科	124 単位	有・無	単位
建築学部	まちづくり学科	124 単位	有・無	単位
	建築学科	124 単位	有・無	単位
	建築デザイン学科	124 単位	有・無	単位
情報学部	情報通信工学科	124 単位	有・無	単位
	コンピュータ科学科	124 単位	有・無	単位
	情報デザイン学科	124 単位	有・無	単位
	システム数理学科	124 単位	有・無	単位
G P Aの活用状況（任意記載事項）		公表方法：		
学生の学修状況に係る参考情報 （任意記載事項）		公表方法：		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：学園ホームページで公表
<https://www.kogakuin.ac.jp/campus/index.html>

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考 (任意記載事項)
先進工学部	全学科(1年生)	1,000,000円	250,000円	410,000円	その他: 施設設備料・実験実習料
	全学科(2年生)	998,000円	250,000円	430,000円	その他: 施設設備料・実験実習料
	全学科(3年生)	998,000円	250,000円	460,000円	その他: 施設設備料・実験実習料
	全学科(4年生)	998,000円	250,000円	490,000円	その他: 施設設備料・実験実習料
工学部 建築学部 情報学部	全学科(1年生)	1,000,000円	250,000円	390,000円	その他: 施設設備料・実験実習料
	全学科(2年生)	998,000円	250,000円	410,000円	その他: 施設設備料・実験実習料
	全学科(3年生)	998,000円	250,000円	440,000円	その他: 施設設備料・実験実習料
	全学科(4年生)	998,000円	250,000円	470,000円	その他: 施設設備料・実験実習料

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組
<p>(概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報科学研究教育センター 教育・研究のための共同利用情報処理設備や、基幹ネットワークの管理・運用を行っています。 ・図書館 新宿、八王子2つの図書館合わせて、蔵書が約25万冊、雑誌が約2,500タイトル揃っています。本以外にも、併設されているAVライブラリーの個人用ブースで、映画やCDなどを楽しむことができます。勉強や研究はもちろん、息抜きもできる図書館です。 ・学習支援センター 大学での専門的な学習の前提となる基礎科目(数学・物理・化学・英語)を中心に、入学前に十分習得できなかった科目と大学の講義内容とを有機的に結びつけて授業する基礎講座と、ひとりひとり(グループでも対応します)の疑問にとことん応える個別指導が行われ、学生の学ぶ力と意欲を育てる手助けをしています。 ・教育開発センター 教育開発センターは、本学の学士課程教育の改革と質の向上を実現するため、全学的な教育方針と教育施策の企画・開発及び教育改善に係わる情報収集・研究を継続的に行う組織として、2009年に設置されました。 ・科学教育センター 「若者の理科離れ」や「科学教育の危機」といわれる日本の局面に向き合い、本学が独自で構築した『新しい教育システム』としての科学教育振興事業を進めてきました。科学イベントでの大学生・大学院生ならびに中・高大院連携校の生徒の支援参画も加え、学内外を問わない科学教育活動を展開しています。 ・ものづくり支援センター 常時4名の技術指導員が加工に関する指導・助言や安全教育、工作機械の管理業務などを行

っており、機械系学科の加工実習・演習といった授業の他、研究活動や学生プロジェクト活動などにおいて、多くの学生や教員に利用されています。
学んだ知識・培った技術を「ものづくり」に応用できる能力を持ち、自ら考え、そのアイデアを実際の形にすることで「ものづくり」の喜びを味わえるような教育研究支援を目指していきます。

・ハイブリッド留学

ハイブリッド留学[®]は、学生が海外へ挑戦するきっかけとして、工学院大学が開発した、日本初、そして独自の留学プログラムです。留学のハードルを下げ、まずは“海を渡る”ことで海外での経験値を高め、異文化にふれ、理解し合う経験を通して、グローバルな視点を養います。

b. 進路選択に係る支援に関する取組

(概要)

・キャリア支援プログラム

本学では、1年次よりスタートする独自のキャリア支援プログラムを確立しています。徹底的な個別指導で、年間面談件数 約 3,300 件あります。就職から進学や公務員試験までアドバイスし、さらにメンタル面は専属の臨床心理士がフォローするなど、学生一人ひとりが将来めざす姿を一緒に考えていきます。

・教育との連携

学科教員と就職支援スタッフが密に連携し、学生の進路状況の把握、学科に即した講座を開講するなど大学ならではの効果的な対策を実施。

事業・業界研究講座：理工系人材のニーズの高い業界や見落としがちな BtoB 優良企業を紹介する講座などを開催します。

・ゴール別対策

試験や面接対策などの各種講座、また進路未決定の4年生へのフォローアップ講座など、目的に合わせたプログラムを用意。

・インターンシップ

本学では、2000年度から「学外研修」という正規の授業科目を設置し、単位認定型のインターンシップを実施しています。

研修は、工学院大学の夏休み期間に実働10日間以上という設定で行っています。対象は学部3、4年生で、所定の条件をクリアすれば選択科目*として2単位が修得できます。（*一部の学科では選択必修科目）

ただ研修を実施するのではなく、学生が目的を持って研修に参加し、学んだことを将来に活かせるよう、教員と職員が事前指導・事後指導を実施しています。

・就職支援センター

地の利を生かした新宿キャンパス、八王子地区の産学連携拠点も担う八王子キャンパス。就職活動では就職支援センターはまさにその最前線基地となります。就職相談、情報収集そして企業と学生の交流の場所として多目的に活用されています。在学生の皆さんに対してはもちろん、卒業生の皆さんにも積極的な支援を行っています。

・就職支援イベント

就職ガイダンスを2回行っています。4月に実施する第1回のガイダンスでは、主に(1)就職活動環境とスケジュールの確認、(2)夏休みまでの過ごし方の2テーマを中心にデータを基に説明します。9月に実施する第2回のガイダンスでは、外部講師を招き選考試験のポイント解説やこれから取り組むべき就職活動準備について説明します。また、就職活動を終えた先輩によるパネルディスカッションも実施します。

そのほかにも、インターンシップ準備講座（業界研究、履歴書対策、就活ビジネスマナ

一)、筆記試験対策講座、SPI 模擬テスト・玉手箱模擬テスト、内定者による就活相談会、学内合同企業説明会事前講座、学内合同企業説明会、公務員試験対策講座オリエンテーションなど実施しています。

c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組

(概要)

・学生支援課

アパートの紹介や落とし物など学生生活に関する事、けがをしたので保険の請求をしたいときや悪徳商法に引っかかったなどの相談事に関する事、奨学金や学費の延納など経済的な事、構内で掲示や立て看板を出したいといった課外活動に関する事、学内施設や学寮などの大学施設や備品の利用についてなどの学生からの問い合わせに対応しています。

・学生相談室

学生生活上の悩みはもちろん、心理、性格、友人、家族についての悩みなど、カウンセラーとの話し合いを通じて、自分自身をみつめ、自分らしい生き方を見いだしていくよう援助しています。

・健康相談室

学生のみなさんが心身ともに健康な状態で大学生活を送れるよう、健康相談室を新宿・八王子両キャンパスに設置しています。健康相談窓口として、健康へのアドバイスのほか、けがや急病に対する応急処置もしています。

・障がい学生への対応

バリアフリー化、キャンパス内環境整備はもちろん、普段の学内における行動支援をはじめ、多方面にわたる支援態勢を用意しています。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：学園ホームページで公表（学生・教員の成果）

<https://www.kogakuin.ac.jp/theme/performance.html>

